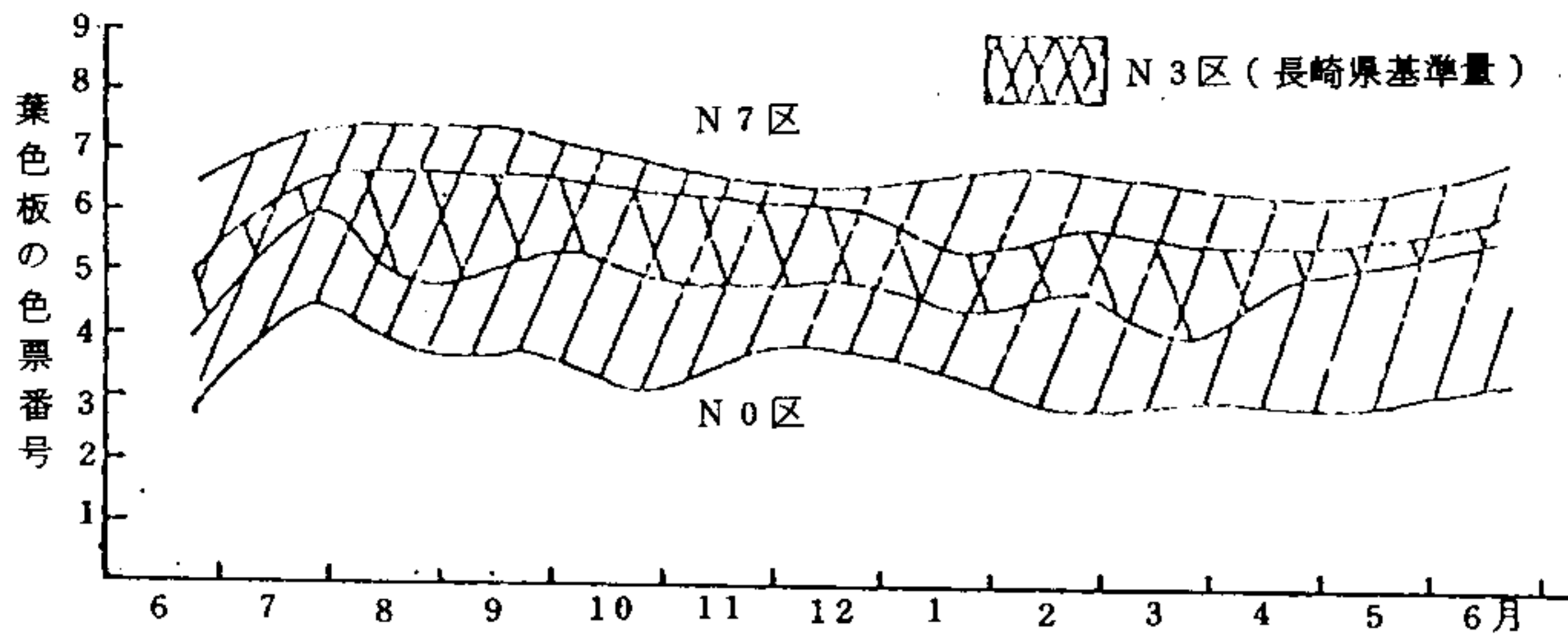


課題名	ミカン用葉色票の検討
成果の要約	<p>葉色測定値の適正範囲は秋肥時 5～6.5，春肥時 4.5～5.5，夏肥時 5.0～5.5 と考えられる。</p>
成績概要	<p>長崎県界樹試験場で開発した温州シカン用葉色板の活用法を確立するため，窒素栄養状態が異なる春葉の葉色の推移と，果実品質，葉中栄養状態について3年間調査した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 葉色測定値は春葉硬化直後から急速に高くなり，7～9月に最高値を示した。その後はそのまま推移するか，漸減し，翌年の5～6月に再び高くなる傾向がみられたが，55年春葉は53，54春葉に比べると夏季以降やや高く推移した。</li> <li>2. N3区（果基準量）の葉色測定値は3年間の成績で見ると4.0～6.5であり，また同一樹でみた葉色測定値の年間変動幅はほとんどが1.3～2.0，窒素施用量の多少ごとにみた月別変動幅は1.3～3.0であった。</li> <li>3. 各施肥時期におけるN3区の葉色測定値は，秋肥時5.0～6.5，春肥時4.5～5.5，夏肥時5.0～5.5であった。</li> <li>4. 葉色測定値と葉中窒素含量との間には，高い正の相関関係が認められた。</li> <li>5. N3区の葉色測定値と比較して1.0前後異なる場合は，窒素施用量を30%程度増減する必要があると考えられる。</li> </ol>

成



(1) 昭和53~55年の春葉

第1図 葉色測定値の年間推移

横

第1表 葉色測定値と葉中窒素含量

	6月	9月	11月	2月	6月
相関係数	$r=0.96$ ※※※	$r=0.73$ ※※※	$r=0.66$ ※※※	$r=0.63$ ※※※	$r=0.84$ ※※※

注(1) 昭和53~55年春葉を対象

概

第2表 葉色測定値と葉中窒素含量

	53年春葉	54年春葉	55年春葉	53~55年春葉
相関係数	$r=0.60$ ※※※	$r=0.56$ ※※※	$r=0.76$ ※※※	$r=0.57$ ※※※

注(1) 年間5回調査

要